

日曜日のピュ (1994)

SUNDAY'S CHILDREN
SONDAGSBARN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 スウェーデン
色彩 Color
時間 118分
初公開日 1994/10/04
公開情報 セテラ=アスク

【解説】

「ファニーとアレクサンデル」という自伝的大作を最後に映画監督を勇退し、演劇活動の傍らで、自分の家族史に拘った作品（「愛の風景」など）を提供し続けているイングマール・ベルイマン。彼の幼年期を率直にシナリオにしたものを、息子ダニエルが、父の映画の鋭さ・厚みとはまた違った、淡彩の清冽さで映画にした。8歳のイングマールは、皆が自分のことをピュと、赤ん坊のように呼ぶのが不満。4つ年上の兄の悪戯にも困っていたが、牧師である父と打ち解けられないことをもっとも気に病んでいた。が、ある日曜日、遠方の教会に説教にいく父に、誘われて同行したピュは、道々、花の名を教えてもらったり、にわか雨に遭って農家の納屋に駆け込んだり、忘れられない心弾むときを過ごす。スウェーデンでは、日曜日生まれの子には超能力があって幸福な子供という言い伝えがあり、他ならぬピュがそうだった。その日曜日、初めて感じる心の温もりに、自分の持って生まれた幸福とはこれのことか……と、彼は幼いながらに納得する。この、自転車に二人乗りの小さな旅の最後に、ささやかだが非常に興奮させられる劇的な場面がある。そこには、ダニエル監督の、父親譲りの並々ならぬ才気が弾けていた。

【クレジット】

監督	ダニエル・ベルイマン	Daniel Bergman
製作	カティンカ・ファラゴ	Katinka Farag
脚本	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
撮影	トニー・フォーシュベルイ	Tony Forsberg
音楽	クラス・エングストローム	
出演	トムー・ベルイグレン	
	レナ・エンドレ	Lena Endre
	ヘンリック・リンローズ	
	ヤコブ・ロイグラフ	
	マリー・リチャードソン	Marie Richardson
	イルマ・クリステンセン	
	ビョルヘ・アールステット	
	トミー・ベルグレン	Thommy Berggren